

事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度分「一部、令和7年度分を含む」)

静岡県立沼津城北高等学校

静岡県沼津市岡一色875

電話 055-921-0344

FAX 055-921-4890

目 次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	17
学校施設の概要	18
在籍生徒調	20
入学志願者及び入学者数調	21
卒業生の動向調	22
生徒の状況	23
授業料収納状況調	24
県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	25
預金調	25
郵券等受払調	25
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	26
委託料に関する調	28
負担金支出調	30
建築工事調	31
繰越工事調	31
公有財産調	33
借地借家等調	34
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	34
行政財産貸付・使用許可調	35
職員公舎管理状況調	36
主要備品調	37
職員調	38
職員の年齢調	40
健康管理	41

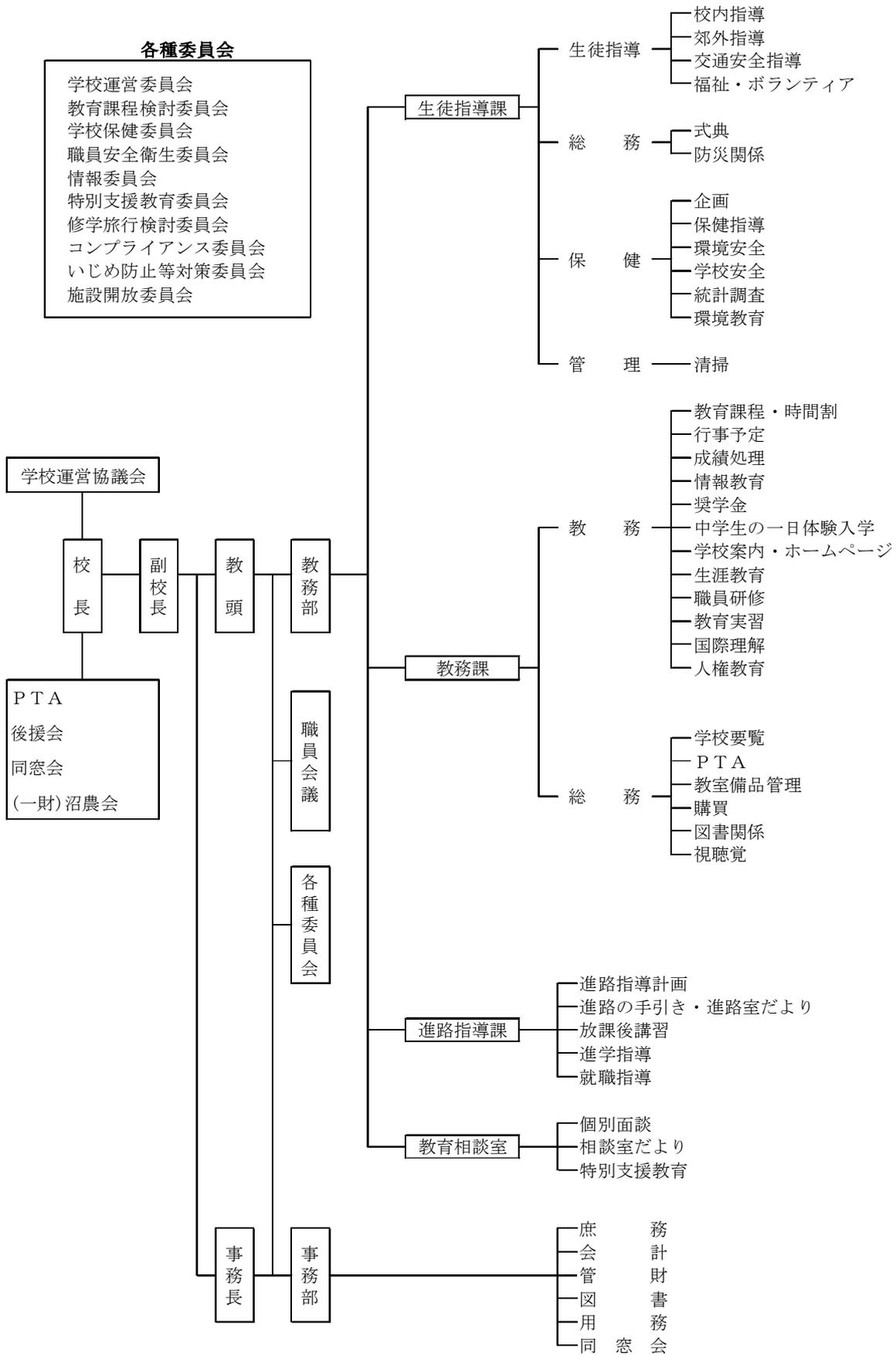
事務事業の概要

1 概況

(1) 学校の沿革

明治 35 年 4 月 17 日	学校設立認可、校名を片浜村外 8 ケ村学校組合立駿東農林水産学校と称し、駿東郡沼津町大手町に開校
大正 9 年 5 月 4 日	校名を静岡県駿東農林学校と改称
昭和 2 年 4 月 1 日	県立移管に伴い校名を静岡県立駿東農林学校と改称
昭和 6 年 2 月 6 日	校名を静岡県立沼津農学校と改称
昭和 23 年 4 月 1 日	学制改革により静岡県立沼津農業高等学校と改称、農業科、園芸科を設置 駿東郡小泉村外 3 ケ村組合立佐野実業学校の県立移管に伴い、同校は静岡県立沼津農業高等学校佐野教場となる。
昭和 28 年 4 月 1 日	佐野教場は静岡県立裾野高等学校として独立
昭和 38 年 4 月 1 日	校名を静岡県立沼津北部高等学校と改称、普通科を併置
昭和 40 年 3 月 25 日	第 2 棟校舎西側竣工
昭和 41 年 3 月 31 日	農業科廃止
昭和 43 年 2 月 8 日	体育館竣工
昭和 45 年 3 月 31 日	園芸科廃止
昭和 45 年 4 月 1 日	完全に普通科高等学校となる。
昭和 48 年 3 月 22 日	第 2 棟校舎東側竣工
昭和 48 年 10 月 19 日	創立 70 周年記念及び第 2 棟校舎落成記念式典挙行
昭和 49 年 4 月 1 日	募集定員 270 人となる。
昭和 49 年 5 月 25 日	プール完成
昭和 55 年 4 月 1 日	募集定員 315 人となる。
昭和 56 年 3 月 31 日	第 3 棟校舎竣工
昭和 56 年 9 月 19 日	第 2 棟耐震補強工事竣工
昭和 57 年 10 月 9 日	創立 80 周年記念式典挙行
昭和 58 年 4 月 1 日	募集定員 360 人となる。
昭和 61 年 4 月 1 日	校名を静岡県立沼津城北高等学校と改称
昭和 63 年 4 月 1 日	募集定員 405 人となる。
平成 6 年 1 月 19 日	第 1 棟校舎改築工事竣工
平成 6 年 10 月 25 日	創立 90 周年並びに新校舎落成記念式典挙行
平成 8 年 4 月 1 日	募集定員 280 人となる。
平成 14 年 10 月 29 日	創立 100 周年記念式典挙行
平成 15 年 4 月 1 日	募集定員 240 人となる。
平成 18 年 4 月 1 日	募集定員 200 人となる。
平成 20 年 1 月 25 日	体育館耐震補強工事竣工
平成 21 年 12 月 10 日	第 2 棟西側耐震補強工事竣工
平成 24 年 12 月 11 日	創立 110 周年記念並びに生活館（城北館）落成記念式典挙行
平成 25 年 4 月 1 日	募集定員 160 人となる。
平成 25 年 4 月 8 日	同一敷地内に沼津特別支援学校愛鷹分校が開校
平成 26 年 4 月 1 日	募集定員 200 人となる。
平成 28 年 4 月 1 日	募集定員 160 人となる。
令和 2 年 4 月 1 日	募集定員 120 人となる。
令和 4 年 11 月 1 日	創立 120 周年記念式典挙行
令和 6 年 4 月 1 日	募集定員 80 人となる。

(2) 組織図
校務分掌



2 スクール・ミッションとスクール・ポリシー

(1) スクール・ミッション

校訓「自分を発掘せよ」「自分を偽るな」「あすのために鍛えよ」のもと、沼津市にある普通科高校として、先進的に取り組んできている「主体的・対話的な深い学び」の授業実践を通して、知識基盤社会を生き抜く「学ぶ力」や「高い志」を持ち、自他の人権を大切にする「人間力」を備えた人材の育成を目指す。

(2) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【本校では卒業までにこのような力が身に付きます】</p> <p>(1) 個性を磨き、社会に羽ばたく「高い志」を育成するために、自己理解力、探究力、向上心を身に付けます。</p> <p>(2) 知識基盤社会を生き抜く「学ぶ力」を育成するために、課題発見力、計画力、実践力を身に付けます。</p> <p>(3) 自らを鍛え、自他の人権を大切にする「人間力」を育成するために、感情制御力、親和・協働力、社会性・公共心を身に付けます。</p>	<p>【本校ではこのような学びを目指し、実践します】</p> <p>(1) 個性を磨き、社会に羽ばたく「高い志」を育成するために、総合的受験力の向上やキャリア教育の推進を目指します。</p> <p>(2) 知識基盤社会を生き抜く「学ぶ力」を育成するために、基盤としての読解力や「主体的・対話的で深い学び」の深化を目指します。</p> <p>(3) 自らを鍛え、自他の人権を大切にする「人間力」を育成するために、特別活動の充実や課外活動と学習活動の両立の達成及び共生・共育の実施による人権意識の涵養を目指します。</p>	<p>【本校ではこのような生徒を求めています】</p> <p>(1) 個性を磨き、社会に羽ばたく「高い志」を育成するために、進路実現に向けて前向きに挑戦する生徒</p> <p>(2) 知識基盤社会を生き抜く「学ぶ力」を育成するために、コツコツと粘り強く学習に励み、学習の楽しさを見出そうとする生徒</p> <p>(3) 自らを鍛え、自他の人権を大切にする「人間力」を育成するために、自分と他者を尊重して、学校生活全般を主体的に取り組む生徒</p>

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

<目標具現化の柱>

ア 「高い志」の育成【自己理解力、探究力、向上心】

- ・Jチャレンジやキャリア教育を通して、自らの将来を主体的に考え、行動する力の育成
- ・小論文・面接指導、進学講習、資格検定試験への挑戦等による総合的受験力の向上
- ・個別面談の充実と模擬試験等の結果の活用による生徒に寄り添った進路指導体制の構築

イ 「学ぶ力」の育成【課題発見力、計画力、実践力】

- ・「主体的・対話的で深い学び」の深化と、一人一台端末活用の推進
- ・シラバスの検討や、観点別評価の検証による新学習指導要領への対応
- ・学びの基礎診断の活用と家庭学習習慣の確立による基礎学力の定着
- ・「学ぶ力」の基盤としての読解力や論理力の育成

ウ 「人間力」の育成【感情制御力、親和・協働力】

- ・生徒会活動や学校行事の充実による、親和・協働力の育成
- ・充実感のある課外活動の実践と学習活動との両立の達成
- ・規則正しい生活習慣とマナーの確立による感情制御力の育成
- ・人権教育や沼津特別支援学校愛鷹分校との共生・共育の実施による人権意識の涵養

エ 安心安全な学習環境

- ・防災教育や安全教育の充実
- ・自転車事故の防止やSNSの不適切利用の防止など、命を守る行動の実践
- ・治癒率の向上と感染症の予防
- ・スクールカウンセラーとの連携や各種診断テストの活用による教育相談体制の充実

オ 地域との連携【社会性・公共心、郷土愛】

- ・Jチャレンジを通して、将来、地域を支える人材を育成

- ・ボランティア活動を通して、地域や社会に対するつながりを意識し、自己有用感を育成
 - ・広報活動による地域への情報発信と防災関係の連携など、地域行事への参加
 - ・学校運営協議会や外郭団体との連携を通して、地域と一体となった特色ある学校づくり
- カ 頼もしい教職員
- ・教職員研修の充実と同僚性の向上及び各教職員の強みを活かした組織運営の促進
 - ・ワークライフバランスの推進
 - ・コンプライアンスの徹底

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア 総合的受験力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による志望理由書、面接、小論文対策 ・総合型や学校推薦型選抜合格率の向上 ・外部模試の成績向上（上位層の向上） ・英検（準2級以上）合格者の増加と下位層の学力向上 ・各種検定試験受験者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期末から全教員により面接・小論文対策指導を行い、総合型や学校推薦型選抜への準備を行わせることはできた。志望理由書においても、教科の専門性を活かした指導ができた。 ・総合型の合格率は64.3%で昨年度（65%）より微減したが、学校推薦型選抜の合格率は58.2%であり、昨年度（87%）より大幅に下落した。 ・外部模試で中間層の成績は現状維持できたが、下位層の成績に大きな変化はなかった。 ・英検受験者数は2級32名（合格2名）、準2級65名（合格11名）、1級合格者が1名いたことは大変良いことであった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員の協力により、進路個別指導を早期から行ったことで生徒の進路実現に繋がられた。自習室で受験勉強に励む生徒が増え、学力を向上させている。 ・指定校推薦でも苦戦するなど受験学力のみならず大学入試に対応する総合的な人間力を育む必要がある。 ・週課題で模試の過去問を扱って問題に慣れさせたり、授業で模試の問題を紹介したりして、模試に対する意識を向上させた。 ・積極的な呼びかけにより英検に挑戦する生徒が一定数おり、今後も続けたい。英検1級合格者が出るなど英語科職員が協力して行った成果が現れた。
高い志の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・社会課題の解決に関心のある生徒の割合80%以上 ・2年生10月までの進路希望先決定70%以上、大学・短大希望者は学部学科決定70%以上、3年生1学期までの進路希望先決定90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会課題の解決に関心のある生徒の割合は81.1%であった。 ・2年生10月までの進路希望先決定83.1%、大学・短大希望者の学部学科決定72.7%、3年生1学期までの進路希望先決定90.1%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間の授業・講演会・学外調査等が良い刺激になり学びを深めるきっかけとなった。ただ、問いの立て方がやや安直であったため、深い学びに結びつかない状況も散見された。しかし、3月の進路探究発表会では自らの進路に結び付けてテーマを設定・探究した結果、進路意識の向上に繋がる優れた発表も見られた。 ・2年生から3年生にかけて進路意識向上を促す卒業生講話などの取組みができた。進路希望決定の割合は高めだが、具体的な進路先は比較検討して熟考させたい。
変化する入試制度への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストに対応した進路指導の展開 ・大学入学共通テストの分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季講習や平日講習において共通テスト対策の問題演習を行った。読解力を必要とする問題を問題演習や定期テストに取り入れ、対策を図った。 ・出題傾向についての情報収集に努めながら指導を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な生徒の学力向上を図ることができた。 ・共通テストを受験しない生徒が多数いる現状での指導は困難が大きい。授業のレベルと共通テストのレベルに乖離があり個別の指導は欠かせない。 ・多様な入試形態に対する情報収集に努めつつ、効果的な指導方法を模索し、次年度へ活用できる校内体制を整備したい。

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	
イ 学ぶ力の育成	新学習指導要領への対応	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修を3回以上実施 新学習指導要領の理解の促進と観点別評価の検証 BYOD対応のための教材研究 校内外の研修への教員の積極的な参加 生徒指導提要改訂についての理解の深化 	<ul style="list-style-type: none"> 6/18 定期訪問、11/6 講演会、2/14 生徒指導提要について研修を実施した。 観点別学習状況の評価について確認し、自校の指導と評価の実践の振り返りを通して、教員に授業改善、生徒の学習改善を図った。 校外研修に参加し、他校が活用しているBYODの授業における活用の仕方を共有した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 定期訪問では、主体的に学習に取り組む態度の評価については、振り返りシートの内容や、学んだ内容から生まれた「新しい課題」などに着目するなどの共通理解が深まった。 外部講師による講演会では、「これからの生徒の学びと先生方の授業力向上を支える授業づくりの視点」と題して、主体的で対話的な深い学びを促す授業づくりについて講演をいただき、授業づくりの新たな視座を得ることができた。 生徒指導提要に関する研修では、生徒指導の構造や生徒の権利という基本的な事項の確認から、グループワークでは教員の個別の課題について意見を出し合い、望ましい指導のあり方 について意見交換をした。
	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の中心が自分で必要と判断した学習である生徒の割合は31.4%（1年生25.7%、2年生19.5%、3年生49.1%）」 家庭学習時間の平均は週およそ9時間38分。（1年生13時間9分、2年生8時間24分、3年生16時間40分） 自ら進んで授業に取り組む生徒の割合は30.4%。（1年生8.1%、2年生31.2%、3年生44.4%） 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の中心が自分で必要と判断した学習」である生徒の割合は8ポイント程度増加したものの、35%以上という目標には届かなかった。2年生の割合が特に低いため2年次から3年の進路を意識させた進路指導を計画的、組織的に再検討が必要である。 3年生の家庭学習時間は16時間を超えており、頑張りや認められるものの2年生の学習時間が短い。基礎力の向上や学びなおしを含めて基礎学力の充実が求められる。 授業や学習に対して受け身の生徒が多い。新たな課題や問いを立てて、自ら進んで学習に取り組む姿勢や態度を育む授業改善がさらに求められる。 	
	読解力や論理力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 各教科でペアやグループワークやリフレクションを行っており、与えられたテーマについて話す・書くことができる生徒は多い。しかし、内容やレベルについてはさらなる向上が望まれる。 朝読書は、ほとんどの生徒が落ち着いて取り組むことができた。 新聞を毎日読む生徒は8.1% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 文章読解を意識した授業展開は恒常的にできた。自ら新たな課題を設定したり、問いを立てる力についてはさらなる向上が課題である。プレゼンテーション能力は総合選抜型受験でも今後ますます必要になるので今後も継続してその向上に努める。 全学年、自主的に読書をする姿が見られた。落ち着いた雰囲気ので1日を始められるので継続して取り組みたい。 新聞学習には積極的に取り組んだが、スマホの普及が進み新聞を購入していない家庭が増えるなど社会情勢の変化や教員の負担など、その在り方について総合的に再検討する必要もある。 	
ウ 人間力の育成	生徒会活動や学校行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の事前事後指導の実施 生徒会活動や学校行事の運営に主体的に携わる生徒90%以上 	A	<ul style="list-style-type: none"> 意見の集約や役割分担など、全体を指揮できるリーダーをいかに育てていくかが、次年度以降の課題である。 3年生が約36%と低い数字となったのは、文化祭などに慣れてしまったせいなのか、それ以外の要因があるのか分析、検討したい。 	

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	
充実感と効率を高める部活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画作成と周知、活動目標の達成 満足度90%以上と県大会出場者50人 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動ごとに月間指導計画と活動目標を設定した。 満足度83.0%（1年生83.5%、2年生78.8%、3年生87.0%）、県大会出場者(弓道部、バレーボール部、レスリング部、卓球部、陸上部、情報メディア部) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 満足度90%には届かなかったが、80%以上の生徒が満足しており、少ない教員でも生徒とともに充実感の得られる部活動ができた。 部活の統廃合を進めながらも、生徒の満足度が高まる活動を目指していきたい。 	
規則正しい生活習慣とマナーの確立	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒の自発的挨拶と対応力向上 服装頭髪検査時の違反0人を2/3以上 進路実現に向けたマナー等の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導時や職員室入室時のみならず、廊下で教員と生徒がすれ違う時など、自発的な挨拶はほとんどの生徒ができています。 服装頭髪検査では特定の違反者により目標数値をクリアできなかった。 学校全体に落ち着きがみられた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶だけではなく、規範意識とマナーの向上を目指す。 生徒が自ら考えて頭髪服装等を正せるよう意識を向上させたい。公的な場での着装や所作の重要性や挨拶がなぜ重要なのか等、学年集会で呼びかけていく。 進路実現に向けて面接指導等とおして挨拶やマナーについて繰り返し指導することができた。 	
人権意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の人権意識や人権感覚の涵養 配慮が必要な生徒への適切な対応 沼津特別支援学校愛鷹分校との連携 生徒間の対人トラブルへの適切な対応 	<ul style="list-style-type: none"> 困り感のある生徒に対しては早め早めの声掛け心がけた。 愛鷹分校と本校の3年生84名がボッチャ大会を2日間にわたり実施した。分校の生徒と良い交流ができた。 友人関係のトラブルは大きな問題に発展しなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラー・養護教諭・保護者を交え、その都度適切に支援ができた。引き続き丁寧な支援を心掛ける。 ボッチャ大会は、初めての試みだったが、どのクラスも参加できるようになるとさらによい。 対人トラブルに関しては、早い段階で適切な対応ができた。 	
エ 安心安全な学習環境	防災体制と防災教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災訓練の参加者70%以上、不参加者の追指導と合わせて100%参加 安否確認訓練において1回で応答する生徒90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災訓練は、参加65%、未実施・対象外33.9%、不参加（自己都合、体調不良や部活動等）31%であった。 安否確認は、第1回(Cラーニング)54.4%、第2回(Cラーニング)97.5%の応答があった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 9月の総合防災訓練が台風のため中止となり、12月の地域防災訓練のみの実施となった。部活動と重なり参加できない生徒が多かった。 安否確認についてはCラーニングを用いて効果的に実施できた。
	安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の感情制御力の向上 交通事故発生件数10件以内 SNSの不適切利用者指導が10人以内 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ認知は1件あった。 交通事故発生件数は9件であった。 県教委によるネットパトロール摘発件数0件 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止等委員会で指導方法などを検討し、全職員で情報を共有できた。 今後も交通ルールとマナーの徹底を継続的に行う。違反者に対する個別指導を実施する。ヘルメット着用指導も実施したい。 SNSの利用は、適切な行動が取れるよう引き続き指導していきたい。
	治癒率の向上と感染症の予防	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断での心電図、貧血、尿検査の有所見者は100%受診（検査、治療） 歯科・視力の受診率60%以上 生徒、保護者の健康に関する意識向上 	<ul style="list-style-type: none"> 心電図、貧血、尿検査の有所見者の受診率は100%。 歯科の受診率は57.4%、視力の受診率は43.9%。 感染症の集団発生予防に力を入れた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 自分の健康を自分で管理できるよう引き続き指導したい。 リスクの高い生徒への指導を強化し、学級閉鎖をすることなく教育活動を続けることができた。
	教育相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒の性格診断検査実施と結果共有 困り感のある生徒や問題を抱え 	<ul style="list-style-type: none"> 4月に1年生対象に1分間カウンセリングを行い、5月に性格診断検査を全生徒に実施し、結果を学年主任や担任と共有した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 性格診断検査は生徒理解のための貴重な材料となるので次年度も継続したい。 問題を抱えた生徒に対し、学校・分掌・学年部内・外部(スクールカ

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	
	<ul style="list-style-type: none"> た生徒への支援体制の確立と連携の充実 気軽に相談できる環境の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 困り感のある生徒に対しては、スクールカウンセラー・養護教諭・学年主任・担任・保護者と連携し、適切な対応ができた。 スクールカウンセラー相談件数 53 件(生徒 50 件、保護者 3 件) 教育相談来室 2 件 		<ul style="list-style-type: none"> ウンセラー、児童相談所、愛鷹分校)と、連携を密に取って適切に対応できた。 相談方法、相談室の場所等を工夫し、生徒が相談しやすい仕組みづくりが課題。Google Classroom の活用や 1 分間カウンセリング等を行う。 	
地域への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 地域が抱える課題に取組む生徒の増加 ボランティア活動や地域行事への参加による生徒の社会性・公共心の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 沼津クリーン週間に、本年度は 95 人が参加した。 学校が窓口となり、サマーショート、沼津夏まつり、眺望会 40 周年イベントへのボランティア活動に参加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 自発的な参加により、ボランティア精神を継続的に養う。 地域を見つめ直すきっかけになっている。1 年生からの参加意欲を向上させたい。 	
オ 地域との連携	広報活動による情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページや X (旧ツイッター) の内容の充実と更新回数増加 (閲覧状況の調査) 学校説明会、一日体験入学参加者の理解度や満足度の向上 近隣中学校への積極的訪問と情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> X (旧ツイッター) 及び Instagram 投稿回数 82 回、閲覧者数 210, 281 人 8 月に実施した一日体験入学は中学生 280 人が参加し、アンケートでほぼ全員 (97.7%) が「参考になった」と回答した。11 月に実施した学校説明会は中学生及び保護者 65 人が参加した。 6 月に管理職による中学校訪問を 38 校で実施。中学校へ出向いての個別説明会を 12 校で実施。中学校 (保護者) の視察受け入れ 2 校。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの刷新や内容の充実化を図ることができた。 SNS の閲覧者数は Instagram を新たに始めたこともあり、昨年度より約 5 倍増加した。 一日体験入学参加者の「参考になった」の回答率が約 98% はとても良かった。 管理職による中学校訪問なども積極的にを行い、前年度より 12 校も多く訪問した。
	学校運営協議会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 令和 6 年度から学校運営協議会との効果的な連携・運営 	<ul style="list-style-type: none"> 第 1 回学校運営協議会を 4 月 15 日、第 2 回を 7 月 30 日、第 3 回を 1 月 30 日、第 4 回を 2 月 17 日に開催した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 本校 OB や外部有識者などの学校運営協議委員から頂いた意見を随時学校運営に取り入れることができた。
カ 頼もしい教職員	教職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 年間 3 回以上の校内研修の充実と授業改善 校内における教職員同士の学び合いによる研修の充実と同僚性の向上 研修履歴を活用した指導助言の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 校内職員研修を 4 回実施した。 第 1 回：6/18 定期訪問「学習評価に基づいた授業改善」、第 2 回：10/3 「ロイロノートの活用」、第 3 回：11/6 「これからの生徒の学びと先生方の授業力向上を支える授業づくりの視点」第 4 回：2/14 「生徒指導提要について」 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修は計画どおりに実施できた 外部講師による講演では、主体的・対話的で深い学びの授業づくりの視点について理解を深めることができた。 今後も BYOD の効果的な授業における活用方法の研究と学校課題に合わせた効果的・実践的な研修を絶え間なく行っていく。 生徒指導の構造や生徒の権利などについて動画視聴やグループワークを行い理解を深めた。
	ワーク・ライフバランスの推進	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員による業務効率化実施 100% 時間外業務時間の対前年比 5% 減少 長期休業中の年休取得日数対前年比増 全部活動の活動目標、年間指導計画作成と効率的な活動の展開 	<ul style="list-style-type: none"> 業務効率化実施は 100%。 時間外業務時間前年比 9% 減少 年休取得日数対前年比 9% 増加 部活動の活動目標、年間指導計画は予定どおり作成できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員が何らかの業務効率化を実施できている。 分掌等の業務の精選を進め、時間外業務時間を減らしていきたい。 年休取得は増加したが、長時間勤務者が一定数いる。 各部活動が効率的な活動を展開している。

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
コンプライアンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス研修を年3回実施 体罰、パワハラ、セクハラゼロ 監査、検査等の指摘事項ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス研修は8回実施した。 第1回：4/23 不祥事根絶、 第2回：5/30 教職員行動規範、ハラスメントの防止、 第3回：6/27 情報セキュリティー研修、 第4回：7/19 不祥事根絶、 第5回：8/28 交通安全、 第6回：9/19 個人情報漏洩防止、 第7回：11/14 信用失墜行為、 第8回：12/17 会計制度 体罰及びハラスメントのアンケートを実施したが、0件であった。 監査、検査等の指摘事項は0件であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス研修はほぼ毎月実施することができた。グループ協議形式の研修は同僚性を高める効果もあった。 体罰及びハラスメントのアンケートから気になる回答はなかったが、今後も繰り返し研修を行うことで教職員の意識を高めていきたい。 研修動画を全職員で視聴し、不祥事が起きてしまう過程などについてグループワークを行い検討した。引き続き不祥事や信用失墜行為の未然防止に努める。

＜評価基準＞ A：十分目標を達成することができた B：おおむね目標を達成することができた
C：あまり目標達成できなかった D：ほとんど目標を達成できなかった

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標

＜スクール・ポリシー具現化の柱＞

ア 「高い志」の育成【自己理解力、探究力、向上心】

- ・Jチャレンジやキャリア教育を通して、自らの将来を主体的に考え、行動する力の育成
- ・小論文・面接指導、進学講習、資格検定試験への挑戦等による総合的受験力の向上
- ・個別面談の充実と模擬試験等の結果の活用による生徒に寄り添った進路指導体制の構築

イ 「学ぶ力」の育成【課題発見力、計画力、実践力】

- ・「主体的・対話的で深い学び」の授業実践と、一人一台端末活用の推進
- ・シラバスの作成・検討や、観点別評価の検証による新学習指導要領への対応
- ・学びの基礎診断の活用と家庭学習習慣の確立による基礎学力の定着
- ・「学ぶ力」の基盤としての読解力や論理力の育成

ウ 「人間力」の育成【感情制御力、親和・協働力、社会性・公共心】

- ・生徒会活動や学校行事の充実による、親和・協働力の育成
- ・充実感のある課外活動の実践と学習活動との両立の達成
- ・規則正しい生活習慣とマナーの確立による感情制御力の育成
- ・人権教育や沼津特別支援学校愛鷹分校との共生・共育の実施による人権意識の涵養

エ 安心安全な学習環境

- ・防災教育や安全教育の充実
- ・自転車事故の防止やSNSの不適切利用の防止など、命を守る行動の実践
- ・治癒率の向上と感染症の予防
- ・スクールカウンセラーとの連携や各種診断テストの活用による教育相談体制の充実

オ 地域との連携【社会性・公共心、郷土愛】

- ・Jチャレンジを通して、将来、地域を支える人材の育成
- ・ボランティア活動を通して、地域や社会に対するつながりを意識し、自己有用感を育成
- ・広報活動による地域への情報発信と防災関係の連携など、地域行事への参加
- ・学校運営協議会や外郭団体との連携を通して、地域と一体となった特色ある学校づくり

カ 頼もしい教職員

- ・生徒の授業満足度、教員の授業力向上に向けた授業評価の実施。
- ・教職員研修の充実と同僚性の向上及び各教職員の強みを活かした組織運営の促進
- ・ワークライフバランスの推進

・コンプライアンスの徹底

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	
ア 高い志の育成	総合的受験力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文・面接指導による総合型選抜や学校推薦型選抜対応 ・外部模試を活用したPDC A ・模擬試験のデータや進路に関する分析や情報の共有 ・英検等の事前指導の充実と継続的指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による志望理由書、面接、小論文対策 ・総合型や学校推薦型選抜合格率の向上 ・外部模試の成績向上 ・英検(準2級以上)合格者の増加 ・各種検定試験受検者の増加
	主体的な進路意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解力、探究力、向上心の育成 ・Jチャレンジやキャリア教育の推進 ・生徒に寄り添った個別面談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会課題の解決に関心のある生徒の割合80%以上 ・2年生10月までの進路希望先決定90%以上、大学・短大希望者は学部学科決定80%以上
	変化する入試制度への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テスト対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストに対応した進路指導の展開 ・大学入学共通テストの分析
イ 学ぶ力の育成	学習指導要領への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習エンジン（学習への主体的・継続的な内発的動機付け）」を意識した「主体的・対話的で深い学び」の授業実践 ・観点別評価の推進と研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を3回以上実施 ・新学習指導要領の理解の促進と、シラバスの作成・検討及び観点別評価の検証 ・一人一台端末の効果的活用 ・校内外の研修への教員の積極的な参加
	読解力や論理力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科での教科書の読解指導 ・SHR等を利用した諸活動 ・読書活動や新聞活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・読解力や論理的に話す力を意識した授業展開 ・朝読書の充実と読書量の増加
	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・課題発見力、計画力、実践力の育成 ・週末課題等の研究 ・学びの基礎診断の活用促進と指導への反映 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間の平均が週14時間以上、自主課題に取り組む生徒が50%以上 ・授業の内容がわかると答える生徒が80%以上
ウ 人間力の育成	生徒会活動や学校行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・親和・協働力の育成 ・リーダーシップの育成 ・生徒主体の生徒会活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の事前事後指導の実施 ・生徒会活動や学校行事で満足な活動ができたと答える生徒90%以上
	充実感のある課外活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動以外の課外活動の充実 ・各部の活動目標に応じた活動計画の設定と効率の良い運営 ・学習活動との両立の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動以外の課外活動の斡旋 ・年間計画作成と周知、活動目標の達成
	規則正しい生活習慣とマナーの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・感情制御力の育成 ・挨拶や礼法の指導の徹底 ・登校指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒の自発的挨拶と対応力向上 ・進路実現に向けたマナー等の確立
	人権意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の実施 ・共生・共育の実施 ・相談室だより等による啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の人権意識や人権感覚の涵養 ・配慮が必要な生徒への適切な対応 ・沼津特別支援学校愛鷹分校との連携 ・生徒間の対人トラブルへの適切な対応
エ 安心安全な学	防災体制と防災教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識を高める広報活動 ・安否確認訓練と避難訓練の年各2回実施と内容の工夫 ・予告なしの避難訓練実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的な防災安全教室の実施 ・地域防災訓練の参加者70%以上 ・安否確認訓練において応答する生徒100%
	安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・命を守る行動の実践 ・交通安全教室の実施 ・SNSの不適切利用の防止 ・いじめの未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の感情制御力の向上 ・交通事故発生件数10件以内 ・SNSの活用起因する問題行動ゼロ

取組目標		達成方法（取組手段）	成果目標
習 環 境	治癒率の向上 と感染症の予 防	<ul style="list-style-type: none"> 保健室利用調査に基づいた個別指導の実施 健康診断有所見者の治療促進 保護者への広報活動の充実 感染症予防対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断での心電図、貧血、尿検査の有所見者は100%受診（検査、治療） 歯科、視力の受診率60%以上 生徒、保護者の健康に関する意識向上
	教育相談体制 の充実	<ul style="list-style-type: none"> 性格診断検査の実施 相談室の有効利用の促進 スクールカウンセラーの活用 教職員間の情報共有と理解 	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒の性格診断検査実施と結果共有 困り感のある生徒や問題を抱えた生徒への支援体制の確立と連携の充実 気軽に相談できる環境の確立
オ 地 域 と の 連 携	地域への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 社会性・公共心の育成 地域を支える人材の育成 ボランティア活動への参加 地域行事への参加 	<ul style="list-style-type: none"> Jチャレンジを通して地域が抱える課題に取り組む生徒の増加 地域ボランティア、地域行事への参加率50%以上
	広報活動による 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページやSNSの積極的な更新と改善 学校説明会、一日体験入学等の内容の工夫と充実 中学校訪問の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページやSNSの内容の充実と更新回数増加（閲覧状況の調査） 学校説明会、一日体験入学参加者の理解度や満足度の向上 近隣中学校への積極的訪問と情報発信
	学校運営協議 会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な学校評議員会から学校運営協議会への移行 PTAや外郭団体との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を3回以上開催 PTA 役員の活動満足度90%以上
カ 頼 も し い 教 職 員	教職員研修の 充実	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の工夫と改善 研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善と生徒理解に向けた年間3回以上の校内研修の実施 校内における教職員同士の学び合いによる研修の充実と同僚性の向上 研修履歴を活用した指導助言の実施
	ワーク・ライ フバランスの 推進	<ul style="list-style-type: none"> 分掌の再編や各個人における業務効率化の具体策実施 勤務時間の管理方法の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外業務時間の対前年度比減 全部活動の活動目標、年間指導計画作成と効率的な活動の展開
	コンプライア ンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事根絶の呼びかけ 根拠法令等の随時確認 交通安全意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス研修を年3回実施 体罰、パワハラ、セクハラゼロ 監査、検査等の指摘事項ゼロ

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取 組 概 要	成 果 及 び 課 題
令 和 6 年 度	<p><主体的・対話的で深い学び、観点別評価等></p> <ul style="list-style-type: none"> 観点別評価とその対応について1年生の評価の振り返りを行い、学習指導・進路指導に活かした。 校内研修は次の4回実施した。 <ol style="list-style-type: none"> 4月4日：新任者研修会 6月23日：定期訪問及び校内研修会 11月6日：研修講演 「これからの生徒の学びと先生方の授業力向上を支える授業づくりの視点」 2月14日：校内研修会 「探究活動」の一環として、1年生が企業訪問インタビューを夏季休業中に実施した。 1月26日に、沼津西高校と探究活動の合同発表会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月の定期訪問では、県総合教育センター高等学校支援課の古谷桂吾指導主事と和田淳指導主事に、研究授業参観後、教科別研修会や校内研修会で指導助言をいただいた。校内研修会は、「授業改善のための学習評価」をテーマとして、特に「主体的に学習に取り組む態度」の考え方についての講習を受けた。 企業訪問インタビューの発表会を9月末に行った。 11月には「これからの生徒の学びと先生方の授業力向上を支える授業づくりの視点」をテーマに校内研修会を実施した。主体的・対話的で深い学びの授業実践の留意点と実践授業例を参照に校内で話し合いを進めた。 2月の研修会では従来の問題行動を正すと

		<p>いう生徒指導から、問題や課題を抱えた生徒を「支える」生徒指導への転換が求められていることから、先生方の意識転換を図る研修を行った。</p>
	<p><人権教育、共生・共育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育に関する講演会や各学年における取組を継続して実施した。 ・2学期：2年生の平和学習（広島・関西修学旅行事前・事後研修） ・沼津特別支援学校愛鷹分校との共生・共育（合同行事：対面式、交通安全教室、学校祭、講演会、薬学講座、芸術鑑賞教室、サッカー部の合同練習、相互の授業参観等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・沼津特別支援学校愛鷹分校との交流活動は、6月に学校祭を合同で実施できた。6月には薬学講座も愛鷹分校の生徒と合同で実施した。また、7月には愛鷹分校の生徒と沼津城北高校の生徒が合同でポッチャを楽しむなどして交流を深めた。
令和7年度	<p><主体的・対話的で深い学び、観点別評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価の振り返りと課題点を共有し、評定の見直しを行い、学習指導・進路指導に活かす。 ・校内研修は次の4回実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 4月2日：新任者研修会 2 6月17日：校内研修会 「ICT活用の基礎研修と活用事例研修」 3 10月27日：定期訪問及び校内研修会を予定 4 2月に対話的・主体的な授業改善研修を予定 ・「探究活動」の一環として、1年生が企業訪問インタビューを夏季休業中に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月のICT活用の基礎研修と活用事例研修では、ロイロやCラーニングの校務の効率化に資する使い方及び、授業における効果的な活用事例について3人の教員がそれぞれの教科・科目における実践例を紹介し活用力向上を図った。 ・企業訪問インタビューの発表会を9月末に行う予定。 ・10月には、「ICTの効果的な活用と授業改善」をテーマに校内研修会を実施する予定。 ・2月の研修会は、6月の研修を受けて「授業におけるICT活用実践報告」を全教員に発表してもらう予定。
	<p><人権教育、共生・共育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育や共生・共育に関する各学年における取組を継続して実施する。 ・2学期：2年生の平和学習（広島・関西修学旅行事前・事後研修） ・沼津特別支援学校愛鷹分校との共生・共育（合同行事：対面式、交通安全教室、学校祭、薬学講座、サッカー部の合同練習、相互の授業参観等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・沼津特別支援学校愛鷹分校との交流活動は、月に1回の「共生・共育連絡会」で調整をしながら順調に実施できている。 <ol style="list-style-type: none"> 4月：対面式、交通安全教室 6月：学校祭、薬学講座、授業参観 7月：ポッチャ交流 8月：サッカー部の合同練習 2学期以降も相互の授業参観等を行う予定

5 教職員について

(1) 令和6年度異動状況

(単位：人)

職名 区分	本務職員											臨時・会計年度任用職員等					合計					
	教育職員							行政職員				本務計	教諭	A L T	非常 勤 講師	非常 勤 労務 職員		非常 勤 嘱託 員	臨時 計			
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	主任実習助手	実習助手	小計	事務長	主査	主任									主事	主任技能員	小計
転出者			1	5				6	1	1				2	8	1				1	9	
退職者				1				1							1			3			3	4
再任用 (退職)				1				1							1							1
転入者			1	1				2	1	1				2	4							4
新任者				2				2							2	1		2			3	5
再任用 (新任)				2				2							2							2
差引増減				▲ 2				▲ 2						▲ 2				▲ 1			▲ 1	▲ 3

(2) 現員数 (令和7年6月30日現在)

(単位：人)

職名 区分	本務職員											臨時・会計年度任用職員等					合計					
	教育職員							行政職員				本務計	教諭	A L T	非常 勤 講師	非常 勤 労務 職員		非常 勤 嘱託 員	臨時 等 計			
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	主任実習助手	実習助手	小計	事務長	主査	主任									主事	主任技能員	小計
男		1	1	13				15			1			1	16			2	1		3	19
女	1			6	1	1		9	1	1			1	3	12	1	1	3		1	6	18
計	1	1	1	19	1	1	0	24	1	1	1	0	1	4	28	1	1	5	1	1	9	37

(3) 健康管理について

ア 令和6年度

職員の健康管理については普段の観察と声かけを行った。勤務時間外労働が多い教職員には、自己チェックシートの実施及び健康管理医からの指導を行い、教職員の心身の病気の早期発見と健康保持に努めた。また、勤務時間を大幅に超過する教職員には、管理職による個別面談も実施した。養護教諭と連携して教職員健康診断、指定年齢健康診断、人間ドックの受診状況を確認するとともに、要再検査の教職員に対しては再受診100%を目指して指導を行った。

イ 令和7年度

職員の健康管理については普段からの観察と積極的な声かけを行うようにしている。勤務時間外労働が多い教職員には、自己チェックシートの実施及び健康管理医からの指導を行い、教職員の心身の病気の早期発見と健康保持に努めている。また、勤務時間を大幅に超過する教職員には、管理

職による個別面談を実施している。午後8時を超えて勤務する予定のある教員には、あらかじめ「退庁時刻以降の在校などに関する申請書」の提出を求め、管理職の許可を受けるようにした。また、「退庁時刻以降の在校などに関する報告書」を提出するようにした。その結果、午後8時以降に勤務する教員は令和7年度からは激減している。さらに養護教諭と連携して教職員健康診断、指定年齢健康診断、人間ドックの受診状況を確認するとともに、要再検査の教職員に対しては再受診100%を目指して指導を行う。

(4) 教職員の研修について

教職経験者研修は教務課（研修担当）、特別支援教育は教育相談室（教育相談担当）、人権教育研修は教務課（研修担当）、校内コンプライアンス研修はコンプライアンス委員会、職員安全研修は生徒指導課（保健担当）・職員安全衛生委員会、「主体的・対話的で深い学び」に関する研修及び観点別評価に関する研修は授業改善委員会が企画・運営を行っている。

ア 令和6年度

(7) 目的

- a 生徒が主体的に学び、学力の向上を目指す。
- b 特別支援教育に関して職員の理解を深める。
- c 教職員自身が人権に対する理解を深めつつ、人権教育の充実を図る。
- d 学校安全に関する教職員の資質の向上に努める。
- e 職員のコンプライアンス意識を高め、不祥事根絶に努める。

(4) 研修内容

- a 学習権の保障、人権教育の視点に立ち、生徒一人ひとりの学びを大切にした授業実践に取り組みとともに、校内研修会（全体研修会、学年別研修会、教科別研修会）を実施し授業改善に取り組む。
- b 外部講師による講演等を通して特別支援教育への理解を深める。
- c 共生・共育や「主体的・対話的で深い学び」の研修会等を通して、人権尊重の理解を深める。
- d 不祥事根絶に向けた研修を年間計画に従い実施するほか、不祥事事例やコンプライアンスに関する情報を周知する。

(5) 研修計画

【主体的・対話的で深い学び、ICT 機器の活用推進】

- ・ 新任者研修会（4月4日）
- ・ 定期訪問（研究授業及び研究協議）及び校内研修会（6月18日）
- ・ 校内研修会「ロイロノートの活用」（外部講師）（10月3日）
- ・ 校内研修会「生徒指導提要について」（2月14日）

【不祥事根絶】

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会議等での校長訓示、新任者オリエンテーション、非常勤講師及び部活動外部指導者研修 ・ 不祥事根絶研修
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静岡県教職員育成指標、静岡県公立学校教職員行動規範について ・ ハラスメント防止などに関する指針について ・ 教職員の生徒指導に係る共通ルールについて ・ 人事評価面談で課題、悩みの確認、相談
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハラスメント自己チェック ・ 学校運営協議会委員への報告及び意見交換
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不祥事根絶研修 ・ 県通知「教職員の綱紀の厳正保持及び交通安全意識の徹底」による注意喚起 ・ 長期休業中における部活動指導への注意喚起
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ セクハラ・わいせつ事例研修 ・ 外部講師による交通事故防止に関する研修
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事評価面談で課題、悩みの確認、相談 ・ 学年別研修にて生徒の状況把握・情報交換

	・学校徴収金について
10月	・コンプライアンス通信の活用（交通犯罪）
11月	・コンプライアンス通信の活用（信用失墜行為） ・教育情報セキュリティ監査の結果及び対策の伝達 ・適切な学期末成績処理の徹底
12月	・県通知「教職員の綱紀の厳正保持及び交通安全意識の徹底」による注意喚起 ・職場リレー研修（会計・物品）
1月	・アンガーマネジメントのための職場づくり研修 ・交通安全動画視聴 ・体罰調査アンケートによる状況把握と対応 ・人事評価面談で課題、悩みの確認、相談
2月	・コンプライアンス通信の活用 ・適切な年度末業務の徹底
3月	・県通知「教職員の綱紀の厳正保持及び交通安全意識の徹底」による注意喚起 ・1年間の振り返り

イ 令和7年度

(7) 目的

- a 生徒が主体的に学び、学力の向上を目指す。
- b 特別支援教育に関して職員の理解を深める。
- c 教職員自身が人権に対する理解を深めつつ、人権教育の充実を図る。
- d 学校安全に関する教職員の資質の向上に努める。
- e 職員のコンプライアンス意識を高め、不祥事根絶に努める。

(4) 研修内容

- a 学習権の保障、人権教育の視点に立ち、生徒一人ひとりの学びを大切に授業実践に取り組むとともに、校内研修会（全体研修会、学年別研修会、教科別研修会）を実施し授業改善に取り組む。
- b 外部講師による講演等を通して特別支援教育への理解を深める。
- c 共生・共育や「主体的・対話的で深い学び」の研修会等を通して、人権尊重の理解を深める
- d 不祥事根絶に向けた研修を年間計画に従い実施するほか、不祥事事例やコンプライアンスに関する情報を周知する。

(5) 研修計画

【主体的・対話的で深い学びの授業改善、観点別評価】

- ・新任者研修会（4月2日）
- ・校内研修会「ICT活用の基礎研修と活用事例研修」（6月17日）
- ・定期訪問（提案授業及び研究協議）及び校内研修会（10月27日）
- ・校内研修会「主体的・対話的で深い学びの授業改善研修」（2月13日）

【不祥事根絶】

4月	・職員会議等での校長訓示、新任者オリエンテーション、非常勤講師及び部活動外部指導者研修 ・学校徴収金について
5月	・教職員の生徒指導に係る共通ルールについて ・人事評価面談で課題、悩みの確認、相談
6月	・ハラスメント防止等に関する指針について ・アンガーマネジメントについて
7月	・県通知「教職員の綱紀の厳正保持及び交通安全意識の徹底」による注意喚起 ・長期休業中における部活動指導への注意喚起
8月	・セクハラ・わいせつ事例研修 ・外部講師による事故防止に関する研修会
9月	・人事評価面談で課題、悩みの確認、相談

	・学年別研修にて生徒の状況把握・情報交換
10月	・ハラスメントのない職場づくり（不祥事根絶に向けた提案） ・メンタルヘルスマネジメント ・学校運営協議会への報告・意見交換
11月	・コンプライアンス通信の活用 ・適切な学期末成績処理の徹底
12月	・県通知「教職員の綱紀の厳正保持及び交通安全意識の徹底」による注意喚起 ・職員の交通安全・交通事犯の報告基準について
1月	・体罰調査アンケートによる状況把握と対応 ・人事評価面談で課題、悩みの確認、相談
2月	・年度末会計処理及び次年度予算計画における留意点の伝達 ・適切な年度末業務の徹底
3月	・県通知「教職員の綱紀の厳正保持及び交通安全意識の徹底」による注意喚起 ・1年間の振り返り

6 防災対策について

令和4年度から防災管理委員会が、自衛防災組織本部が防災に関して実質的中心を担い、今までよりも即自的・実践的組織へと進化した。また、包括的な危機管理体制を行うよう、危機等対処マニュアルの見直し作業を行っている。マニュアルの策定を踏まえ、地震・火災等の災害から生徒の生命を守り、身体の安全を確保し、かつ校舎等施設・設備の保全を図るため、次の対策の徹底を行っている。

(1) 防火対策

ア 令和6年度

11月に火災を想定した抜き打ち避難訓練を行い訓練後に沼津北消防署の指導の下、愛鷹分校と合同で煙体験や消火器体験といった防災体験を行った。

イ 令和7年度

11月に火災を想定した防災訓練を実施する予定である。

(2) 地震対策

ア 令和6年度

危機等対処マニュアルの見直し作業を行い、事前の危機管理や発生時の危機管理、事後の危機管理を想定し、職員全体で危機に取り組めるようにした。

5月に地震を想定した避難訓練を行い、訓練後に自衛隊による防災講話・救護実技訓練を行った。本校は第一次避難地に指定されていないが、地元自治会と連携し、災害時の地域住民への対処について確認を行った。

生徒には年間1回以上の地域防災訓練参加を義務づけ、各地域での防災訓練に参加するよう指導するとともに、参加できなかった生徒に関しては、学校での指導を行った。

同報メール等による安全確認訓練を年2回計画し、1回目は5月に実施した。5月についてはメールの不具合等(生徒への連絡未着)もあり、当初確認率が54%に留まった(前年度83.7%)。そのため、その対応を徹底させ10月の2回目調査に臨み、安否確認率を97.5%まで高めた。

イ 令和7年度

引き続き、危機等対処マニュアルの見直し作業を行い、事前の危機管理や発生時の危機管理、事後の危機管理を想定し、職員全体で危機に取り組めるようにした。

5月に地震を想定した避難訓練を愛鷹分校と合同で行い、訓練後に静岡県東部地域局の方に地震防災に関する講演をいただいた。

本校は第一次避難地に指定されていないが、地元自治会と連携し、災害時の地域住民への対処について確認を行った(花園町及び宮前町自治会。「風水害非常時における覚え書き」)。

生徒には年間1回以上の地域防災訓練参加を義務づけ、各地域での防災訓練に参加するよう指導するとともに、参加できなかった生徒に関しては、学校での指導を行う予定である。

安全確認訓練を年2回計画し、1回目はCラーニングで5月に実施した。Cラーニングを未確認の生徒についてはCラーニングを確認するように指導した。2回目はCラーニングにて、10月に

実施する予定である。

(3) 学校警備対策

ア 令和6年度

休日・夜間においては業者に警備を委託し、継続した警備体制により事故発生の未然防止に努め、教職員には校舎の解錠及び施錠の時間を徹底し、校舎管理について意識の高揚を図った。

週休日等における校舎利用については、使用者が管理職に事前に申し出て、鍵の貸出し簿に記入し、管理職から鍵を受け取る方式を実施している。

不審者が建物内に職員に気付かれずに侵入できてしまう状況があるとの沼津特別支援学校愛鷹分校からの指摘があり、門扉閉鎖等の防犯に関する連携を強化していく必要がある。

イ 令和7年度

休日・夜間においては業者に警備を委託し、継続した警備体制により事故発生の未然防止に努めている。教職員には校舎の解錠及び施錠の時間を徹底し、校舎管理について意識の高揚を図った。

週休日等における校舎利用については、使用者が管理職に事前に申し出て、鍵の貸出し簿に記入し、管理職から鍵を受け取る方式を実施している。

(4) 警報設備等の保全対策

ア 令和6年度

火災報知設備、避難器具類、電気設備等については、正常な機能が常に保持できるよう、専門業者に保守点検を委託するとともに、自主点検を実施した。消防設備点検は8月と2月に実施した。

イ 令和7年度

火災報知設備、避難器具類、電気設備等については、正常な機能が常に保持できるよう、専門業者に保守点検を委託するとともに、自主点検を実施する。消防設備点検は8月と2月に実施する予定である。

7 学校開放について

(令和7年6月30日現在)

年度	施設名	利用種目	利用日数	利用人数	利用者負担金 (電気料：円)
令和6年度	武道場	レスリング	132	3,113	23,391
	体育館		0	0	0
	運動場		0	0	0
	教室	模擬試験等	7	920	15,218
	合計		139	4,033	38,609
令和7年度	武道場	レスリング	45	1,145	2,387
	体育館		0	0	0
	運動場		0	0	0
	教室		0	0	0
	合計		45	1,145	2,387

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第50条、第51条、第52条、第60条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立高等学校学則 高等学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令
2 学校の管理・運営 に関する こと	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 静岡県教育委員会事務決裁規程 いじめ防止対策推進法 静岡県立学校の授業料等の徴収に関する条例 静岡県立学校授業料等徴収規則 静岡県手数料徴収条例 静岡県高等学校等教育資金及び高等学校等奨学金貸与規則 高等学校等就学支援金の支給に関する法律 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行令 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行規則 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条） 社会教育法（第43条、第45条、第47条、第48条）

□□□□□□□□

学 校 施 設 の 概 要

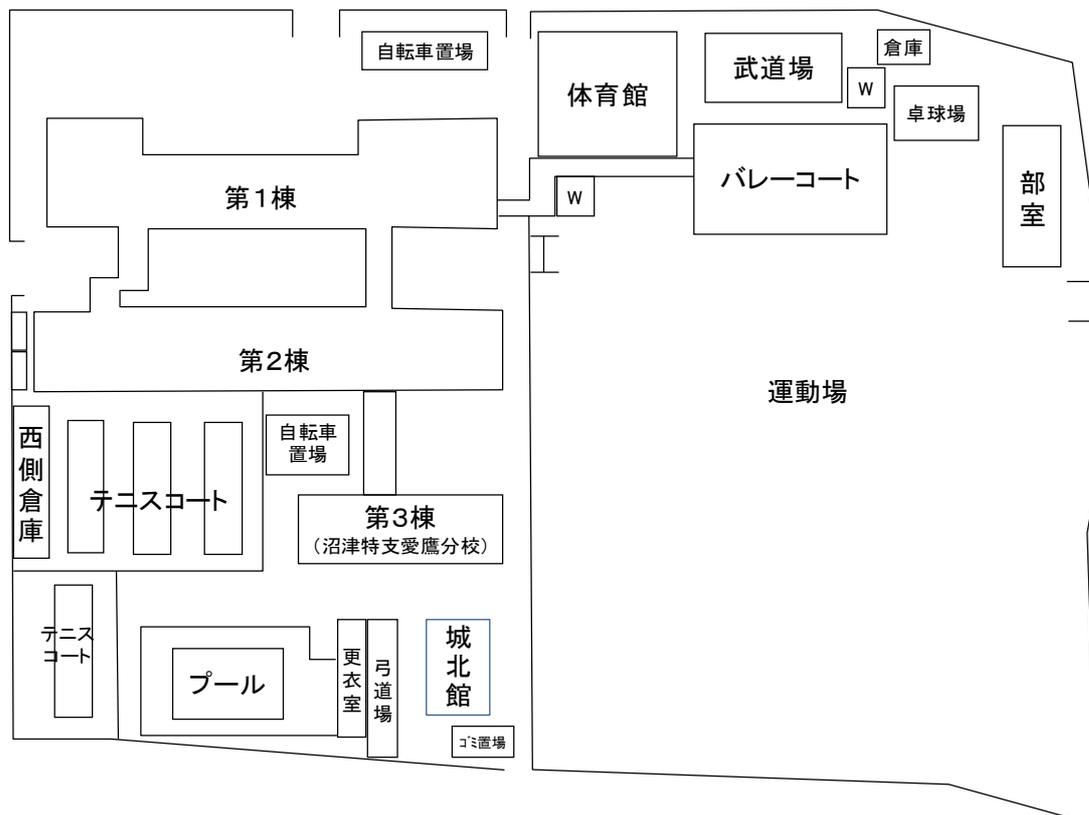
1 面積及び所有区分

(令和7年6月30日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要	
		県 有 m ²	国 有 m ²	市 町 村 有 m ²	後 援 会 有 m ²	民 有 m ²		
学 校 敷 地	44,112.81	44,096.81				16.00		
内 訳	校 舎 敷 地	16,430.00	16,414.00				16.00	
	運 動 場 敷 地	24,655.00	24,655.00					
	そ の 他 の 敷 地	3,027.81	3,027.81					
校 舎	建 2,881.78	建 2,881.78						
	延 8,964.47	延 8,964.47						
体 育 館	建 1,184.08	建 1,184.08						
	延 1,371.24	延 1,371.24						
武 道 場	建 695.35	建 695.35						
	延 580.87	延 580.87						
そ の 他 の 建 物	建 1,803.70	建 1,665.40			建 138.30			
	延 2,195.11	延 2,056.81			延 138.30			
生 活 館	建 290.53	建 290.53						
	延 469.48	延 469.48						
プ ー ル	400	400					25m×16m 7コース	
職 員 住 宅	戸 8	戸 8				戸	戸	

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等(法面・演習林等を除く)

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	44,112.81 m ²	8,964.47 m ²	24,655.00 m ²
県平均	45,574.48 m ²	9,782.41 m ²	22,506.84 m ²

□□□□□□□

在 籍 生 徒 調

(令和 7 年 6 月 30 日 現在)

学年	学科別 区分		普 通 科														
			定員	男子	女子	計											
1 年	入 学 者		80	41	37	78											
		増 加															
		減 少															
	現 在							41	37	78							
2 年	入 学 者						80	45	35	80							
		増 加															
		減 少															
	2 年時当初							45	35	80							
		増 加															
		減 少															
現 在											45	35	80				
3 年	入 学 者		120	40	43	83											
		増 加															
		減 少															
	2 年時当初							1	1	1							
		増 加															
		減 少															
	2 年時当初											39	42	81			
		増 加															
		減 少															
	3 年時当初															(1)	(1)
	増 加																
	減 少																
3 年時当初				3	3	3											
	増 加																
	減 少																
3 年時当初								39	40	79							
	増 加																
	減 少																
現 在												39	40	79			
合 計												125	112	237			

入学志願者及び入学者数調

区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
学 科 別		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
生徒定員 (A)		1 2 0	1 2 0	1 2 0	8 0	8 0
募集者数 (B)		1 2 0	1 2 0	1 2 0	8 0	8 0
志願者数	男	6 2	8 5	3 9 (2)	4 5	4 1
	女	6 4	6 6	4 3 (1)	3 5	3 8
	計(C)	1 2 6	1 5 1	8 2 (3)	8 0	7 9
受検者数	男	6 2	8 3	3 9 (2)	4 5	4 1
	女	6 4	6 6	4 3 (1)	3 5	3 7
	計(D)	1 2 6	1 4 9	8 2 (3)	8 0	7 8
合格者数	男	6 1	6 8	3 9 (1)	4 5	4 1
	女	6 2	5 6	4 3 (0)	3 5	3 7
	計(E)	1 2 3	1 2 4	8 2 (1)	8 0	7 8
志願倍率 (C)/(B)		1. 0 5	1. 2 6	0. 6 8	1. 0 0	0. 9 7 5
受検倍率 (D)/(B)		1. 0 5	1. 2 4	0. 6 8	1. 0 0	0. 9 7 5
入学者数	男	6 1	6 7	4 0	4 5	4 1
	女	6 2	5 6	4 3	3 5	3 7
	計 (F)	1 2 3	1 2 3	8 3	8 0	7 8
充足率 (F)/(A)		1. 0 3	1. 0 3	0. 6 9	1. 0 0	0. 9 7 5

卒業生の動向調

1 進路状況

学 科 別		普通科			
年 度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
卒業生徒数		119	118	121	
内 訳	(進学志願者)		(115)	(112)	(81)
	進 学 者	大学・短大	74	68	80
		専修・各種学校等	37	42	36
		小 計	111	110	116
	就職者		4	6	4
	自営者		0	0	0
	進学準備者		4	2	1
	その他		0	0	0
合 計		119	118	121	

2 求人状況 (全日制のみ)

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
就職希望者数	4	6	4
求 人 数	237	242	245
求人倍率	59.3	40.3	61.3

3 資格取得状況 (令和6年度)

学 科 別	普 通 科	
卒業生徒数	121人	
資格の取得状況 (種類別)	実用英語技能検定準2級	4人
	実用英語技能検定2級	1人
合 計	5人	

□□□□□□□□

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年6月30日現在) (単位:人)

市町名	沼津市	裾野市	御殿場市	三島市	長泉町	清水町	小山町	その他	合計
生徒数	114	29	16	17	53	4	1	3	237
構成比%	48.1%	12.2%	6.8%	7.2%	22.4%	1.7%	0.4%	1.2%	100%

(2) 通学方法 (令和7年6月30日現在) (単位:人)

区分	徒歩	自転車	バス	電車と 徒歩	電車と バス	電車と 自転車	バスと 自転車	電車と バスと 自転車	保護者 の車	合計
生徒数	9	150	4	32	5	22	0	2	13	237
構成比%	3.8%	63.3%	1.7%	13.5%	2.1%	9.3%	0%	0.8%	5.5%	100%

2 部(クラブ)の加入状況

(令和7年6月30日現在) (単位:人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		11	5	/	16
男子	1年	32	2	7	41
	2年	36	4	5	45
	3年	25	14	0	39
	計(A)	93	20	12	125
	構成比	74.4%	16.0%	9.6%	100%
女子	1年	11	5	21	37
	2年	12	18	5	35
	3年	17	23	0	40
	計(B)	40	46	26	112
	構成比	35.7%	41.1%	23.2%	100%
合計	(A+B)	133	66	38	237
	構成比	56.2%	27.8%	16.0%	100%

□□□□□□□□

(全日制)

授業料収納状況調

(令和6年度)

期 別	月 別	調 定 の 状 況						収 納 の 状 況				異 動 者 等 の 状 況		
		1 年		2 年		3 年		計		納 期 内 収 納 額	納 期 後 収 納 額		収 入 未 済 額	
		人 員	調 定 額	人 員	調 定 額	人 員	調 定 額	人 員	調 定 額					取 納 率
一 期	4	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円	A. 期首収納権利発生額=1,395,900円 (47人×9,900円×3月) B. 収納権利増減(▲)額=29,700円 <内訳> 4月~7月分:1年:就学支援金に 該当(遡及認定)▲1 C. 収納必要額A(±)B=1,366,200円
	5													
	6													
	7	18	534,600	12	356,400	17	504,900	47	1,395,900	1,395,900	100	0	0	
	8	▲1	▲29,700					▲1	▲29,700					
	計	17	504,900	12	356,400	17	504,900	46	1,366,200	1,395,900	100	0	0	
二 期	7													A. 期首収納権利発生額=2,772,000円 (56人×9,900円×5月) B. 収納権利増減(▲)額=0円 C. 収納必要額A(±)B=2,772,000円
	8													
	9													
	10	20	990,000	13	643,500	23	1,138,500	56	2,772,000	2,673,000	96.2	0	99,000	
	11											99,000	0	
	計	20	990,000	13	643,500	23	1,138,500	56	2,772,000	2,673,000	96.2	99,000	0	
三 期	12													A. 期首収納権利発生額=2,217,600円 (56人×9,900円×4月) B. 収納権利増減(▲)額=0円 C. 収納必要額A(±)B=2,217,600円
	1	20	792,000	13	514,800	23	910,800	56	2,217,600	2,178,000	98.2		39,600	
	2											39,600	0	
	3													
	計	20	792,000	13	514,800	23	910,800	56	2,217,600	2,178,000	98.2	39,600	0	
合 計		57	2,295,900	38	1,514,700	63	2,554,200	158	6,355,800	6,246,900	98.1	138,600	0	D. 収納必要額=6,364,800円

令和7年度(令和7年6月30日現在) なし

□□□□□□□□

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和6年度	令和7年度 (令和7年6月30日現在)
	件 数	件 数
高等学校入学検定料	80	0

□□□□□□□□

預 金 調

(令和7年6月30日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
スルガ銀行 本店営業部	無利息型 普通預金	□□□□□□	沼津城北高等学校 資金前渡者 横溝 千都生	0	職員給与、負担金等 の資金前渡
スルガ銀行 本店営業部	無利息型 普通預金	□□□□□□	(自振口) 沼津城北高等学校 資金前渡者 横溝 千都生	0	光熱水費、電話料金 等の口座振替
残 高 合 計				0	

□□□□□□□□

郵 券 等 受 払 調

(令和7年6月30日現在)

(単位：枚、円)

区 分	種 類	令和6年度						令和7年度						摘 要		
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出			期首残高	
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額		枚数	金額
郵券	10円券	27	270	20	200	35	350	12	120	0	0	0	0	12	120	通信用
	26円券	0	0	11	286	11	286	0	0	0	0	0	0	0	0	
	63円券	6	378	0	0	6	378	0	0	0	0	0	0	0	0	
	84円券	16	1,344	0	0	16	1,344	0	0	0	0	0	0	0	0	
	110円券	0	0	20	2,200	5	550	15	1,650	0	0	4	440	11	1,210	
	120円券	24	2,880	0	0	7	840	17	2,040	0	0	0	0	17	2,040	
計			4,872		2,686		3,748		3,810		0		440		3,370	

□□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和5年度	令和6年度	左のうち、5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		891,000	
	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		2,441,992	
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		1,427,894	
計					4,726,200	4,760,886	0
(14) 工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		2,310,000	
計					2,320,250	2,310,000	0
(16) 公有財産購入費							
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		386,100	
計					93,390	386,100	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		27,225,200	
計					32,257,500	27,225,200	0
(21) 補償、補填及び賠償金							
計					0	0	0

□□□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年6月30日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、6年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	340,628	0
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	215,101	0
						0
計					555,729	0
(14) 工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	0
計					0	0
(16) 公有財産購入費						
計					0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	0	0
計					0	0
(18) 負担金、補助 及び交付金	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	21,200	0
計					21,200	0
(21) 補償、補填 及び賠償金						
計					0	0

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支 出 日 年 月 日	金 額	委託業務の内容	摘 要
				当初額	変 更 増減額	計						
1	可燃物収集運搬処理業務	有限会社大真商会	燃やすごみ(週2回) プラスチック製容器包装(隔週1回) 運搬料 1回 26,950円 処分料 1kg 6.82円	燃やすごみ(週2回) プラスチック製容器包装(隔週1回) 運搬料 1回 25,410円 処分料 1kg 6.82円			指名	R6.4.12) R7.3.31	R6.5.31 216,940 R6.6.28 276,578 R6.7.31 276,033 R6.8.30 298,790 R6.9.30 241,770 R6.10.31 268,960 R6.11.29 302,411 R6.12.26 329,860 R7.1.31 278,304 R7.2.28 279,934 R7.3.31 251,475 R7.4.30 274,191 小計 3,295,246	一般廃棄物収集運搬処理業務委託	沼東高 沼西高 沼工高 沼特 沼視特 沼聴特 分含む	
2	自家用電気工作物保安管理業務	秋元電気管理事務所 秋元 芳太	月次点検 11回 30,800円 年次点検 1回 58,300円	397,100	0	397,100	随契	R6.4.1) R7.3.31	R6.5.24 30,800 R6.6.28 30,800 R6.7.31 30,800 R6.8.30 30,800 R6.9.30 58,300 R6.10.30 30,800 R6.11.29 30,800 R6.12.26 30,800 R7.1.31 30,800 R7.2.28 30,800 R7.3.31 30,800 R7.4.30 30,800 小計 397,100	自家用電気工作物保安管理業務委託	随契1号 (少額)	
3	理科廃液収集運搬・処分業務委託	ジャパンウェイスト株式会社	89,540	89,540	0	89,540	随契	R6.8.30) R7.1.31	R6.11.14 89,540	理科廃液収集運搬処分業務委託	随契1号 (少額)	
4	外壁全面打診調査業務委託	合同会社石橋剛建築設計事務所	798,875	792,000	0	792,000	随契	R6.9.24) R7.1.31	R7.2.7 792,000	外壁全面打診調査業務委託	随契1号 (少額)	
5	産業廃棄物運搬処分	有限会社愛宕産業	88,000	概算 88,000	0	概算 88,000	随契	R7.2.10) R7.3.31	R7.4.11 88,000	産業廃棄物運搬及び処分	随契1号 (少額)	
	事務関係計	5件							4,661,886			
1	有害物質含有調査業務委託	東邦化工建設株式会社	99,000	99,000	0	99,000	随契	R6.7.1) R6.7.31	R6.8.15 99,000	アスベスト含有調査業務委託	随契1号 (少額)	
	工事関係計	1件							99,000			
	合計	6件							4,760,886			
参考1	警備業務	セコム株式会社		8,316,000	0	8,316,000		R1.10.1) R6.9.30		沼津東高校ほか8校警備業務委託	沼津東高校	
参考2	警備業務	セコム株式会社		17,820,000	0	17,820,000		R6.10.1) R11.9.30		沼津東高校ほか8校警備業務委託	沼津東高校	
参考3	消防用設備等点検業務	株式会社藤興産		4,180,000	0	4,180,000		R6.4.1) R7.3.31		沼津工業高校ほか7校消防用設備等点検業務委託	沼津工業高校	
参考4	プール浄化装置保守点検業務	三友水処理株式会社		196,680	0	196,680		R6.4.11) R6.11.30		沼津西高校ほか11校プール浄化装置設備保守点検業務委託	沼津西高校	
参考5	建築基準法第12条に基づく定期点検業務	有限会社一級建築士事務所アドス設計室		1,694,000	0	1,694,000		R6.8.13) R7.2.28		沼津西高校ほか7校建築基準法第12条に基づく定期点検業務委託	沼津西高校	
	計	5件										

委 託 料 に 関 す る 調

(令和7年度)
(令和7年6月30日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契 約 金 額			契約締結方法	契約期間	支 出 年 月 日	金 額	委託業務の内容	摘 要
				当初額	変 更 増 減 額	計						
1	(事務関係) 可燃物収集運搬処理業務	有限会社大真商会	燃やすごみ(週2回) プラスチック製容器包装(隔週1回) 運搬料 1回 25,410円 処分料 1kg 6.82円	燃やすごみ(週2回)	プラスチック製容器包装(隔週1回)	運搬料 1回 25,410円 処分料 1kg 6.82円	指名	R7.4.8 R7.5.30 R7.6.30 R8.3.31	216,824 275,105	一般廃棄物収集運搬処理業務委託	単価契約 沼東高 沼西高 沼工高 沼特 沼視特 沼聴特 分含む	
2	自家用電気工作物保安管理業務	秋元電気管理事務所 秋元 芳太	月次点検 11回 31,900円 年次点検 1回 86,900円	437,800	0	437,800	随契	R7.4.1 R7.5.30 R7.6.30 R8.3.31	31,900 31,900 63,800	自家用電気工作物保安管理業務委託	随契1号(少額)	
	事務関係計	2件								555,729		
	該当無し											
	工事関係計	0件								0		
	合計	2件								555,729		
参考1	警備業務	セコム株式会社		17,820,000	0	17,820,000		R6.10.1 R11.9.30			沼津東高校ほか8校警備業務委託	沼津東高校
参考2	消防用設備等点検業務	株式会社藤興産		4,378,000	0	4,378,000		R7.4.1 R8.3.31			沼津工業高校ほか7校消防用設備等点検業務委託	沼津工業高校
参考3	プール浄化装置保守点検業務	三友水処理株式会社		183,700	0	183,700		R7.4.11 R7.11.28			沼津西高校ほか11校プール浄化装置設備保守点検業務委託	沼津西高校
	計	3件										

□□□□□□□□

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国高等学校長協会総会・研究協議会参加費	静岡県高等学校長協会	開催要項による	全国高等学校長協会第76回総会・研究協議会	4,000円	R6.5.14
2	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会参加費	静岡県高等学校長協会生徒指導専門委員会	開催要項による	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	2,000円	R6.7.19
3	甲種防火管理新規講習受講料	日本防火・防災協会	開催要項による	甲種防火管理新規講習	8,000円	R6.7.23
4	高等学校就学支援金	全日制高等学校授業料(第1期分 236名分)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	7,009,200円	R6.7.31
5	高等学校就学支援金	全日制高等学校授業料(第1期分 1名分)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	29,700円	R6.8.21
6	全国普通科高等学校長会総会・研究協議会参加費	全国普通科高等学校長会	開催要項による	全国普通科高等学校長会第74回総会・研究協議会	6,000円	R6.8.30
7	高等学校就学支援金	全日制高等学校授業料(第2期分 227名分)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	11,216,700円	R6.10.31
8	高等学校就学支援金	全日制高等学校授業料(第3期分 226名分)	高等学校就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	8,949,600円	R7.1.31
計		8件			27,225,200円	

□□□□□□□□

負担金支出調

(令和7年度)

(令和7年6月30日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会受講料	日本産業廃棄物処理振興センター	開催要項による	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会	13,200円	R7.5.2
2	全国高等学校長協会総会・研究協議会参加費	静岡県高等学校長協会	開催要項による	全国高等学校長協会第77回総会・研究協議会	4,000円	R7.5.14
3	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会参加費	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	開催要項による	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	4,000円	R7.6.27
計		3件			21,200円	

□□□□□□

建 築

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金額	
					当初額	変更増減額
1	教育管理費	令和6年度沼津城北高等学校第1棟給水管バルブ他更新工事	沼津市岡一色地内	円 2,332,000	円 2,310,000	円
		合 計	1件			

(参考)

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金額	
					当初額	変更増減額
1	教育管理費	令和7年度沼津城北高等学校体育館照明改修工事	沼津市岡一色地内	円 16,335,000	円 15,620,000	円
		合 計	1件	16,335,000	15,620,000	

□□□□□□

繰 越

(参考)

整理 番号	予算科目	事業（箇所）名及び内訳	事業箇所	契約額	前年度執行 支払額	繰越額
1	教育管理費	令和6年度沼津城北高等学校高圧ケーブル更新工事	沼津市岡一色地内	円 8,228,000	円 3,030,000	円 5,198,000
		合 計	1件	8,228,000	3,030,000	5,198,000

工 事 調

(令和6年度)

計	契約締結方法	受注者	着手完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財産 台帳	摘要
2,310,000	随契	(株)レイダシ	R6. 11. 6 R7. 2. 26	2,310,000	屋上2箇所のバタフライ弁、屋内11箇所の仕切弁をバタフライ弁へ交換	-	随契1号(少額) 令達 R6. 10. 10 支払 R7. 3. 31

(令和7年度)

(令和7年6月30日現在)

計	契約締結方法	受注者	着手完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財産 台帳	摘要
15,620,000	一般	(株)長沢電機	R7. 6. 17 R7. 9. 30	6,240,000	体育館アリーナ、諸室等の照明更新、及び分電盤の改修	-	前金支払 R7. 6. 4
15,620,000				6,240,000			

工 事 調

(令和6年度から令和7年度へ繰り越し分)

(令和7年6月30日現在)

同左支出済額	支出未済額	契約締結方法	受注者	着手完成(予定) 年 月 日	繰越理由
円	円				
5,198,000		指名	システムナオ(株)	R6. 10. 8 R7. 5. 12	材料納期が遅延し、年度内に停電を伴う作業日が確保できなかったため。
5,198,000					

公 有 財 産 調 査

(令和6年度)

区 分	令和6年3月31日現在		増		減		令和7年3月31日現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産	千円	4,148,452	千円		千円	40,321	千円	4,108,131	
土地	㎡	44,096.81					㎡	44,096.81	3,601,457
立木竹	本	183.00			本	10	本	182.00	6,123
建物	㎡	514,163	㎡		㎡	37,598	㎡	476,565	
	13,442.87		13,442.87		13,442.87		13,442.87		
工作物	個	26,699	個	3	個	2,713	個	23,986	
普通財産	千円	140,289	千円		千円	3,712	千円	136,577	
土地	㎡	87,494					㎡	87,494	
建物	㎡	52,795			㎡	3,712	㎡	49,083	
	597.03		597.03		597.03		597.03		
工作物	個	0					個	0	
	5		5		5		5		
公有財産に 準ずるもの	千円	207	千円		千円		千円	207	
電話加入権	本	207					本	207	
	6		6		6		6		

令和7年度中増減なし

□□□□□□

借地借家等調

(令和7年6月30日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	借料		契約期間	所有者又は契約者氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	沼津市岡一色字瀬戸ノ原300-1	畑	学校用地	m ² 16.00	円 460	円 7,360	R5.4.1 R8.3.31	個人	建物敷地
	小計					16.00		7,360			
2	建物	雑屋建	沼津市岡一色875		鉄骨鉄筋造トタン葺平屋建	m ² 108.50	円 無償	円 無償	R7.4.1 R8.3.31	(一財)愛鷹山組合記念沼農会	弓道場
3	"	"	"		鉄骨ブロック造トタン葺平屋建	29.80		無償	R7.4.1 R8.3.31	(一財)愛鷹山組合記念沼農会	倉庫
	小計					138.30		0			
4	工作物	照明装置	沼津市岡一色875		アルミ及びステンレス製	個 1	円 無償	円 無償	R7.4.1 R8.3.31	(一財)愛鷹山組合記念沼農会	テニスコート夜間照明6基
	小計					1		0			
	合計							7,360			

□□□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和6年度)

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	(契約額の年度別内訳)				
				6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
長期継続契約	高速カラー印刷機賃貸借契約	高速カラー印刷機1台 (契約日)R6.4.1	円 2,970,000	円 594,000	円 594,000	円 594,000	円 594,000	円 594,000
長期継続契約	電子複写機賃貸借契約	電子複写機1台 (契約日)R6.4.1	283,932	56,787	56,787	56,786	56,786	56,786

(令和7年度)

(令和7年6月30日現在)

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	(契約額の年度別内訳)				
				6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
長期継続契約	高速カラー印刷機賃貸借契約	高速カラー印刷機1台 (契約日)R6.4.1	円 2,970,000	円 594,000	円 594,000	円 594,000	円 594,000	円 594,000
長期継続契約	電子複写機賃貸借契約	電子複写機1台 (契約日)R6.4.1	283,932	56,787	56,787	56,786	56,786	56,786

□□□□□□□□

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年6月30日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	沼津市岡一色875	学校用地	学校用地	7本	円 1,500	円 10,500	R3.4.1 R8.3.31	西日本電信電話(株)静岡支店長	電柱 3本 支線 4条
2	"	"	"	"	"	17本	1,500	25,500	R3.4.1 R8.3.31	東京電力パワーグリッド(株)静岡総支社長	電柱 9本 支線 6条 支線柱 2本
3	"	"	"	"	"	510.66㎡		免除	R7.4.1 R12.3.31	(一財)愛鷹山組合記念沼農会理事長	弓道場
4	"	"	"	"	"	36.46㎡		"	R7.4.1 R12.3.31	"	倉庫
5	"	"	"	"	"	2914.93㎡		"	R7.4.1 R12.3.31	沼津市長	市道
6	土地建物	学校敷地 事務所建	"	学校用地 事務所建	学校用地 鉄筋コンクリート造 アスファルトシングル葺	11.25㎡ 3.30㎡		"	R7.4.1 R10.3.31	静岡県立沼津城北高等学校PTA会長	団体職員駐車・執務スペース
7	"	"	"	"	"	11.25㎡ 3.30㎡		"	R7.4.1 R10.3.31	静岡県立沼津城北高等学校後援会会長	団体職員駐車・執務スペース
8	建物	事務所建	"	事務所建	鉄筋コンクリート造 アスファルトシングル葺	8.00㎡		594,000	R6.4.1 R9.3.31	ダイドードリンコ(株)東海営業部	飲料用自動販売機
9	"	"	"	"	"	1.00㎡		免除	R7.4.1 R10.3.31	(一財)愛鷹山組合記念沼農会理事長	公衆電話
10	"	"	"	"	"	13.95㎡		"	R6.4.1 R9.3.31	静岡県立沼津城北高等学校PTA会長	生徒昼食販売場所
11	"	"	"	"	"	0.18㎡ 0.03㎡ 0.01㎡		"	R7.4.1 R12.3.31	沼津市長	地域防災無線機・同法無線個別受信装置
12	"	"	"	"	鉄筋コンクリート造 石板葺	876.10㎡ 249.39㎡		"	R6.4.1 R9.3.31	静岡県立沼津特別支援学校校長	愛鷹分校校舎・作業場(使用承認)
13	土地	学校敷地	"	学校用地	学校用地	0.4㎡		"	R7.1.1 R11.3.31	門池地区連合自治会	防犯カメラ
合計								630,000			

□□□□□□□□

職員公舎管理状況調

(令和7年6月30日現在)

整理番号	所在地	建築年月	構造	管理戸(室)数 (A)	入居戸(室)数 (B)	Bの内他 事務所職 員入居戸 (室)数	空家戸 (室)数 (A-B)	摘 要
1	沼津市大岡 4053-1	H3.6	非木造	8	0	0	8	R7.5.1～ 空室 1戸 R6.7.27～ 空室 1戸 R1.9.1～ 空屋 1戸 R1.10.18～ 空屋 1戸 R2.8.28～ 空屋 1戸 R2.9.1～ 空屋 1戸 R3.9.1～ 空屋 1戸 R4.4.1～ 空屋 1戸
	計	/	/	8	0	0	8	

□□□□□□

主 要 備 品 調

(令和7年6月30日現在)

整理 番号	区 分		品 名 . 規 格	利 用 状 況	購 入 年 月	購 入 金 額
	大・中	小				
1	2- 1	パーソナルコンピュータ(一式)	ICT環境整備機器一式	週5日(年間180日) 情報処理授業	平成29年12月	円 7,668,000
2	3- 3	プロジェクター	プロジェクター	週5日(年間180日) 授業	令和3年3月	2,571,250
3	2- 1	その他の情報処理機器	校内LANサーバー式 ネットワークサーバ等機器一式	毎日(通年) 校務・授業	平成13年3月	2,394,000
4	10-12	室内競技用器具	レスリング用マット ルーダス DX-A級マット	毎日(年間300日) 部活動	平成3年6月	2,369,851
5	10-12	室内競技用器具	レスリングマット ルーダス DX-A級滑り止めマット	毎日(年間300日) 部活動	平成14年11月	2,139,865
6	2- 1	パーソナルコンピュータ(一式)	パーソナルコンピュータ(一式)	週5日(年間180日) 授業	令和3年3月	1,904,109
7	2- 1	パーソナルコンピュータ周辺機器	点字プリンタ DOG-Multi	月1日(年間12日) 校務・授業(特定職員)	平成19年3月	1,362,900
8	10-12	トレーニング用器具	レッグカール&エクステンションマシン セノBA2113	週3日(年間150日) 部活動	平成元年12月	1,107,250
9	10-12	トレーニング用器具	バタフライ&ローイングマシン セノBA2413	週3日(年間150日) 部活動	平成元年12月	952,750
10	10- 7	鍵盤楽器	アップライトピアノ ヤマハYU-5	週2日(年間72日) 音楽授業	平成11年2月	864,780
11	2- 1	その他の情報処理機器	校内LANサーバー式 HP DL320	毎日(通年) 校務・授業	平成21年7月	793,800
12	10- 7	鍵盤楽器	グランドピアノ ヤマハGSE	週2日(年間72日) 音楽授業	昭和55年11月	715,000
13	3- 1	その他の撮影機器	サーモグラフィカメラ スクールセット ウチダ 8-700-0402S	週5日(年間200日) 健康観察(保健室)	令和3年6月	712,800
14	10- 8	その他の芸術用器具	表装機 DM式T型	年間20日 書道授業	平成7年2月	663,526
15	1- 4	移動書庫	コクヨ MF-M362 M762	毎日(通年) 校務(事務室)	平成6年1月	654,000
16	6- 4	変圧器・整流器	電源装置 ナカムラN40 AF-1	年間10日 物理授業	昭和57年2月	580,000
17	10- 7	管楽器	ロータリーチューバ ヤマハ YBB-64	毎日(年間300日) 部活動	昭和63年3月	550,000
18	2- 1	その他の情報処理機器	校内LANサーバ等一式 NECサーバ一式・無停電電源装置	毎日(通年) 校務・授業	平成29年3月	529,308
19	1- 4	たな	たな A型 傾斜複式2連7段	毎日(通年) 図書配架(図書室)	平成29年2月	478,440
20	1- 4	金庫	金庫 W906×D710×H1801	毎日(通年) 校務(事務室)	平成29年8月	466,560

職 員 調

(令和7年6月30日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	校 長	横溝 千都生		□□□□	□年 □月	□□□
2	副 校 長	福室 敦之		□□□□	□年 □月	□□□
3	教 頭	秋永 能宏	地歴公民	□□□□	□年 □月	□□□
4	事 務 長	水越 しのぶ		□□□□	□年 □月	□□□
5	教 諭	土屋 恵嗣	国 語	□□□□	□年 □月	□□□
6	教 諭	加瀬 誠	理 科	□□□□	□年 □月	□□□
7	教 諭	山田 義行	数学・情報	□□□□	□年 □月	□□□
8	教 諭	杉山 慶太	保健体育	□□□□	□年 □月	□□□
9	教 諭	二見 貴章	数 学	□□□□	□年 □月	□□□
10	教 諭	山本 秀和	地歴公民	□□□□	□年 □月	□□□
11	教 諭	月岡 和子	英 語	□□□□	□年 □月	□□□
12	教 諭	福永 智子	国 語	□□□□	□年 □月	□□□
13	教 諭	山本 信	国 語	□□□□	□年 □月	□□□
14	教 諭	永井 幸子	英 語	□□□□	□年 □月	□□□
15	教 諭	大胡田 裕	英 語	□□□□	□年 □月	□□□
16	教 諭	鶴田 敦	理 科	□□□□	□年 □月	□□□
17	教 諭	武藤 瞳	英 語	□□□□	□年 □月	□□□
18	教 諭	萩野 一磨	国 語	□□□□	□年 □月	□□□
19	教 諭	田村 幸司	保健体育	□□□□	□年 □月	□□□
20	教 諭	嶋津 唯	英 語	□□□□	□年 □月	□□□
21	教 諭	清水 康宏	地歴公民	□□□□	□年 □月	□□□
22	教 諭	高橋 祐貴	数 学	□□□□	□年 □月	□□□
23	教 諭	遠藤 小珠	理 科	□□□□	□年 □月	□□□
24	養護教諭	大藏 量子		□□□□	□年 □月	□□□
25	主任実習 助 手	長谷川 裕子	理 科	□□□□	□年 □月	

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
26	主査	井上 知子	給与・会計	□ □ □	□年 □月	□□□
27	主任	青木 優騎	施設・管財	□ □ □	□年 □月	□□□
28	主技能員	鈴木 恵里子	用務	□ □ □	□年 □月	
平均年数					□年 □月	

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭	鈴木 愛葉	地歴公民	□ □ □	□年 □月	□□□
2	外国語指導講師	Lukomski Kaylie Anne	英語	□ □ □	□年 □月	□□□
3	非常勤講師	小林 設郎	理科	□ □ □	□年 □月	□□□
4	非常勤講師	深澤 憲一	美術	□ □ □	□年 □月	□□□
5	非常勤講師	仁科 悠	音楽	□ □ □	□年 □月	□□□
6	非常勤講師	西川 愛美	書道	□ □ □	□年 □月	□□□
7	非常勤講師	永田 桃詩美	家庭	□ □ □	□年 □月	□□□
8	部活動指導員	加藤 秀朋	レスリング	□ □ □	□年 □月	
9	非常勤職員 労務職員	諏訪部 孝志	用務	□ □ □	□年 □月	
10	非常勤職員 嘱託職員	羽根 佐和子	就学支援金	□ □ □	□年 □月	
11	学校医	高桑 博	内科 健康管理医	□ □ □	□年 □月	
12	学校医	平川 博秀	眼科	□ □ □	□年 □月	
13	学校医	佐々木 豊	耳鼻科	□ □ □	□年 □月	
14	学校医	菊田 泰生	歯科	□ □ □	□年 □月	
15	薬剤師	渡辺 信昭		□ □ □	□年 □月	

□□□□□□

職員の年齢調

(令和7年6月30日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0 人	
20歳以上 30歳未満	4	
30歳以上 40歳未満	4	
40歳以上 50歳未満	3	
50歳以上 56歳未満	11	
56歳以上 61歳未満	4	
61歳以上	2	暫定再任用職員2人
計	28	平均年齢 46.7歳

□□□□□□

健康管理

1 令和6年度受診状況

区 分	内 容
受診状況	受診者数 29 人
	職員数 29 人
受診率	100.0%
県平均受診率	100.0%

(1) 未受診の理由

□□□□□□

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健康管理区分		人数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。	人
B1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要治療 人
B2		要経過観察 人
C1	勤務をほぼ平常に行っており症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要治療 (人)
C2		要経過観察 人
D1	平常の勤務でよい。	7人 (7人)
D2		15人 (15人)
D3		3人 (3人)
区分者計		25人 (25人)
未区分者数		3人
合 計		28人

(1) 管理区分A～C2該当者に対する措置状況

□□□□□□

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 □□人
 イ 新規採用 □□人
 ウ 自己都合による未受診 □□人
 エ その他(休職) □□人